

## 読者の声

## 天皇誕生日に思ったこと

無職 茨城県・男性(71)

■二月二十三日、今年の日皇誕生日は妻を連れて皇居の一般参賀に行きました。

みぞれ交じりの小雨が降り寒い中、老若男女、外国人、車椅子に乗った方など実に様々な人たちが長蛇の列を作っていました。週刊誌やSNSの中の一部の心無い人々による皇室への下品な批判が目立つ昨今ですが、天皇家を慕う人の多さに安堵する一日となり、行って良かったと思いました。私たち国民は、天皇陛下から、「冷たい雨が降る厳しい寒さの中、誕生日にこの

ように来ていただき、皆さんから祝っていたくことを、誠にありがとうございました。先月発生した能登半島地震によって亡くなられた方々にあらためて哀悼の意を表するとともに、ご遺族と被災された方々に心からお見舞いをお伝えいたします」とのお言葉を賜りました。新年一日に大地震に見舞われ、未だ苦しむ国民がいることを案じておられる天皇陛下のお気持ちを想像すると万感胸に迫る思いになりました。そんな中、ちよつと気になる光景も目に

しました。右翼団体の一団と思しき身なりの人たちが、天皇陛下がお言葉を述べられているときも傘をたたむこともせず、もう片方の手はポケットに突っ込んだまま、大股を開いて立っていました。子供たちに「起立、気をつけ、礼」をさせない小学校が増えているという話も耳にするようになってしまった現今の日本です。そんな皇居での光景も今や驚くほどのことではないのかも知れません。しかし、そういう人たちが口にする「世直し」の「直し」とは、いったい何をどのようにしようと思しているものなのでしょう。そこが全く分かりません。格好をつけるなどは申しません。やくざ者のような風体でも

それは個人の好みですから結構だと思えます。ですが、陛下の御前でポケットに手を突っ込んだまま陛下のお言葉を聞くというのは無礼千万、許し難い行為です。そんなことは外国人でさえ分かることではないでしょうか。現に、アメリカの国家元首である大統領でさえ天皇陛下には「最敬礼」という最高位の礼儀を尽くすのです。右翼だと言うなら、雨が降っても槍が降っても、陛下がお出ましになられたら最敬礼でお迎えをし、気をつけをしてお言葉を賜る。その手本を示すべきでしょう。一般人の立場で生意気を言うようですが、そんなことを思いながら皇居を後にした令和六年の天皇誕生日でした。